

隠れた名曲・佳曲を集めて 第10回

プログラム

ひさしぶりの「隠れた名曲・佳曲を集めて」の特集です。今日はその第10回目をお送りします。ドヴォルザークのセレナード二短調は1878年1月に作曲され、同年11月17日にドヴォルザーク自身の指揮で初演されました。ドヴォルザークのセレナードという作品22の弦楽セレナードが有名ですが、この作品は、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、チェロ、コントラバスという編成で、管楽器が主体のため「管楽セレナード」とも呼ばれています。素朴な中に絶妙な音色を作り上げ、民族的な感情が波打っています。18世紀に戸外で演奏されていたセレナード本来の姿を思い起こさせる名曲です。アイルランドとスコットランド系の両親の元に生まれたアメリカの作曲家マクダウェルは15歳で渡欧、1876年パリ音楽院に入学、1879年にはフランクフルト音楽院に入学して作曲を名教師ヨーゼフ・ラフに師事、ラフの紹介で出会ったリストの影響からかピアノ作品を数多く残しました。ピアノ協奏曲第2番二短調は彼の代表作で、リストの助言を力にアメリカに戻った1888年に作曲され、1889年4月にマクダウェル自身のピアノとボストン交響楽団の定期演奏会で初演、好評を博しました。ロマン主義に彩られたリスト風のラブソニックで華やかな技巧、美しく叙情的でノスタルジックな情感など、充実した構成を持った佳曲です。ドヴォルザークと並ぶチェコの作曲家スメタナのピアノ三重奏曲ト短調は1855年に作曲され、その年の11月にスメタナ自身がピアノを受け持ちプラハで初演されました。1848年に民族の自由と権利を要求する革命運動が起きたとき、スメタナは積極的に参加しますが運動は失敗、抑圧時代に入ってもそれに屈する事なく作曲に励み、ピアニストとしても活躍しました。その一方で49年に結婚し生まれた幼子を病気で亡くするという不幸も経験しますが、その時期に作曲されたのがこの作品です。緩徐楽章を持たない急-急-急の3楽章構成ですが、急の中に緩徐部分を組み込んだ形式をとっています。ロマンティックな郷愁と情熱が溢れ出る名曲です。シューベルトの交響曲第6番八長調は1817年10月に第1楽章を書き上げた後、ロッシェニを知り、4ヶ月後に完成した残りの3楽章にはイタリア的な作風が感じられると言われています。1828年12月シューベルトの死後ウィーンで初演。同じ八長調の第8番「グレート」に対し「小八長調」とも呼ばれますが、生き活きとした生命力と巧みなリズムの変化は第8番にはない魅力を持った名曲です。(中川)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904):

セレナード二短調 op.44 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章、第4楽章

第1楽章 モデラート・クワジ・マルチャ 第2楽章 テンポ・ディ・メヌエット

第3楽章 アンダンテ・コン・モート 第4楽章 アレグロ・モルト

ヘッス・ロペス・コボス指揮ローザンヌ室内管弦楽団

(1998.5.19 ローザンヌ市立ホールでのLive)

エドワード・アレクサンダー・マクダウェル (1860~1908):

ピアノ協奏曲第2番二短調 op.23 ~ 第1楽章、第3楽章

第1楽章 ラルゲット・カルマート 第2楽章 プレスト・ジョコーソ 第3楽章 ラルゴ・モルト・アレグロ

ジェフリー・シーゲル (ピアノ)

レナート・スラトキン指揮バイエルン放送交響楽団

(1993.4.16 ミュンヘン、ガスタイクホールでのLive)

*** 休憩 ***

ベドルジハ・スメタナ (1824~1884):

ピアノ三重奏曲ト短調 op.15 ~ 第1楽章、第3楽章

第1楽章 モデラート・アッサイ 第2楽章 アレグロ・マ・ノン・アジタート 第3楽章 プレスト

アンドラーシュ・シフ (ピアノ)/塩川悠子 (ヴァイオリン)/ボリス・ベルガメンシコフ (チェロ)

(1992.9.10 ベルリン・フィルハーモニー室内楽ホールでのLive)

フランツ・シューベルト (1797~1828):

交響曲第6番八長調 D.589 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章、第4楽章

第1楽章 アダージョ・アレグロ 第2楽章 アンダンテ 第3楽章 スケルツォ・プレスト 第4楽章 アレグロ・モデラート

ミラン・ホルヴァート指揮スイス・イタリア放送管弦楽団

(1983.6.10 スイス・イタリア語放送ホールでのLive)

ホームページアドレス <http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/>